

自己評価及び外部評価結果(なでしこ館)

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200810), 法人名 (有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生), 事業所名 (グループホーム蔵 なでしこ館), 所在地 (札幌市北区新川2条10丁目1番35号), 自己評価作成日 (令和3年10月30日), 評価結果市町村受理日 (令和4年1月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Empty box for business-specific points.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JivgyosyoCd=0170200810-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty box for external evaluation points.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果(なでしこ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週必ずミーティング後に運営理念を職員全員で復唱し、理解を深め、意識して介護業務が出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事等での交流は出来なかったが、町内会から花の苗を頂き、利用者と一緒に植えたり、近所の方から、折り紙で作成した、お守りなどを頂いている。又、散歩などで、地域の方々との挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、書面で利用者の生活の様子を伝えている。又、「利用者の理解」「高齢者の虐待」などを会議の議題に揚げ、地域の方々に伝えるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面会議としている。利用者状況、サービス内容等を報告し、アンケート形式で毎回、ご意見を頂いている。サービス向上に活かすよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、密に連絡を取っているとは言えない。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通し、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えている。又、空き状況によっては、入居に関し、相談をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して研修等を通して理解を深められるよう努めている。現在身体拘束している事例はないが、身体拘束廃止委員会を設け、見直しできるよう話し合いを行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの影響により、外部にて研修は受けられていないが、オンラインで講義を視聴したり内部研修などを行いスタッフ一同情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は今のところ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、学ぶ機会を持っていない。現在入居中の利用者に、必要性のある利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ、説明を行っている。又、不安等について尋ねている。料金の改定がある時は事前に手紙等で伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、意見や要望を伝えて頂く機会がある。又、家族の来訪時や電話、手紙などでも、意見等を伝えて頂ける機会に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議、学びの会、カンファレンス時等で、意見や提案を発言出来る様に、努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任より、個々の実績を報告してもらい、実際に現場を見て、向上心を持って働けるよう、時には面談をする等、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修等は、計画的に行っている。個々のレベルに合った、外部研修を受ける機会も設けていたが、コロナ禍の為、リモートに切り替えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流は出来ていないが、代表者とのネットワークは取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、本人に要望等について、お聞きしている。又、それまでに受けていた介護サービス事業所等から情報を頂き、本人の安心の確保が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が、不安な事などを遠慮なく聞きやすい相手であるよう、努めている。入居時は特にLINE等を活用し、動画や写真を添えて様子がわかるように、密に連絡をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受ける段階で、必要な支援は何かを検討し話し合っている。又、ホームのサービスだけでは不足するものがあれば、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴と認知症の症状を照らし合わせ、ご本人が自信を持って行えることを模索し、取り組めるようフォローを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信やLINE、電話などを活用し、ご本人の今を共有してもらうことで、必要なときはご家族の協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で来訪制限されているが、距離をとり離れたところから面会できるようにしている。(窓越し、階段上から等)電話や手紙のやりとりをしている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や相性を観察し、トラブルを回避できるよう席替えや、テーブルの配置を工夫して対応している。その都度見守り、スタッフが間に入り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今は、コロナ禍で難しくなっているが、それまでは、入院し退去になった方のお見舞いに行っている。又、退去した方のご家族が、退去後も数年にわたり、ホームの行事に参加頂いていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度カンファレンスを実施。本人も参加あり、希望、意向の把握に努め、実践できるよう試みている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族に生活歴等の記入を協力頂いている。ご本人や家族に昔の話を聞き、現在の生活でも大きな違いが出ないよう、また長年の趣味など継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来ることは本人に行ってもらい、過介助にならないよう努め、一日の生活を記録に残し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、一人ひとりに合わせたケアとあり方を話し合っている。個人カンファレンスでは、ご本人も交え、話を聞く機会を作り、それを元に介護計画に反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子をここに記録し、いつもと違う変化があったときはわかりやすいように記入し、実践にいかせるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策の為、中々面会は難しいが、ICTを活用し、以前より連絡を密に取り、ニーズに対応できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策で、どうしても閉鎖的な生活になってしまっている。以前は、タクシーを使い、歌の会に参加したり、地域行事にも出かけていた。その代わりになるものをと、施設内で盆踊りを行ったり、出張ラーメン等、楽しめる物を提供できる様努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族に選択して頂いている。訪問診療とは別に、眼科など、専門科に受診することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回勤務しているので、体調面や気付き、情報を報告、相談に適切な看護を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師に、紹介して頂く形で入院先は決定し、その際にフェイスシート等を活用し、情報伝達に努めている。又、病状の説明等には、必ずご家族に付き添い、話を聞いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が摂れなくなってきた、など変化があれば、早いうちから医師、ご家族も交え、話し合いが出来る機会を作っている。今後の方針について十分に納得して決めていけるよう支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修を行い、急変や事故発生時に対応できるよう努めている。また避難訓練時に救急救命の実戦練習をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	不意な災害に備えて定期的に避難訓練を行っており、スタッフ、利用様にも身につけて頂けるよう努めている。コロナウイルス感染症流行前は地域の方にも協力頂き避難訓練を実施していた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心に配慮し、安心して過ごせるよう声掛けできるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人カンファレンスの場で本人からの希望や思いを聞く機会を設け、実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員サイドの都合を優先することもあるが、可能な限り利用者様の要望を聞き入れ、すぐに実行出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様それぞれが選んだ衣類で能力に応じた支援を行っている。誕生日にはプレゼントを用意し、おしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。コロナ以前は洋服を買いにお出掛けにも行っていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いをスタッフ間で共有し、お好きな物に代替えするなど工夫して提供している。また食器拭きなどできることをお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間ごとの献立に沿って食事を提供し、食事量、水分量なども日誌に記入し、一人ひとりの状態を把握できるように努めている。また献立表は管理栄養士にカロリー計算をしてもらう予定。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合わせ、口腔内の汚れを確認し、不十分な所などスポンジなどを使い清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に記録と照らし合わせながら、一人ひとりの排尿の間隔をみている。必要時声掛け、誘導、介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者さんには、オリーブオイルやバナナ、乳製品などを摂取して頂き、身体を動かす機会も作り、なるべく下剤に頼らず排便を促す努力をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	熱めがいい、お湯たっぷりの湯舟に入りたい、ひとりでゆっくりしたい、などの希望や体調に合わせ、入浴を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後ともに運動や散歩、レクリエーションなどの提供の他に、ご自身の部屋で休んだり趣味に勤しむ時間も作るようにしている。それぞれがマイペースに過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝、昼、夕と服薬する袋の色を変え、間違いのないようにWチェックで確認し、服用の際には日付、名前を声に出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の拒否がなければ家事などの役割を行ってもらい、利用者様の個々で好きな食べ物を提供したり、趣味の物を提供し、生活にメリハリをつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で買い物など人が多い場所には思うように外出はできないが、感染対策に気をつけながら散歩や公園散歩等天気や利用者様の体調をみて積極的に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方には管理して頂いており、自己管理が難しい方は事務所で預かりしている。希望に応じてコロナ前にはスタッフと一緒に買い物に出かけていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話や、対応出来るときにはテレビ電話も利用し、交流できるよう努めている。希望があればはがきや手紙も用意し、やりとりできるよう対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節に合わせて、装飾を施し、季節感を感じて頂けるよう工夫している。利用者さんの手作りのものや、皆で書いた書道もなるべく季節に合わせたものを飾るようにしている。また近々に撮った写真も飾り、楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテレビを置き、囲むよう工夫してソファを置き、利用者さん同士談話されたり、食卓にいてもテレビが見られるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が使い慣れたものや家族の写真、動物の写真を貼るなどして心地いい空間を考え提供し、テレビが好きな方にはテレビを置き、災害時には危険のないよう配置を考えている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所等わかりやすいように場所を示す工夫をし、個々の方々の部屋も名前をはるなどわかりやすいようにしている。室内も危険がないよう動線に支障がないよう工夫している。		